

保健科学研究院及び札幌市清田区、北海道教育大学岩見沢校、マクセル株式会社は、3月10日(火)に「札幌市清田区の介護予防・健康支援事業の実施に関する覚書」を締結しました。この覚書は、札幌市清田区における「きよた健活チャレンジ」を中核とする介護予防・健康支援事業を通じて、生活習慣病予防や医療費分析の研究成果を清田区に還元し、清田区民の健康増進に貢献するとともに、新たな保健科学研究を清田区民と一緒に推進するためのものです。本覚書の締結に関しては、新型コロナウイルスの影響もあり、一堂に会しての調印式を行わずに、持ち回りによる調印となりました。

本覚書にもとづき、①「きよた健活チャレンジ」の企画・立案、②研究フィールドの確保、③介護および健康関連データの収集・分析、④産学官連携活動の推進、の4分野を中心に協力する予定です。今回は、

大学と地方自治体だけではなく、ライフソリューションや光エレクトロニクスの先端企業であるマクセル株式会社が参加した産学官連携が特徴です。この覚書に基づき、札幌市清田区において、本研究院と北海道教育大学岩見沢校が協力しながら、マクセルが開発した指タッピングによる認知症関連機器などを札幌市清田区の皆さんと一緒に実証展開する予定です。

札幌市清田区との連携においても、清田区の「きよた健活チャレンジ」を通じて、地域の健康課題の解決に向けて様々な研究を行い、その研究成果をもとに、札幌市清田区の各種健康施策の企画・立案に協力していくことを目指しています。本研究院は積極的に産学官地域連携を進めており、市町村との連携協定は岩見沢市、札幌市北区、室蘭市に次いで4件目となります。今後ますますの保健科学の教育・研究と地域貢献の推進が期待されます



「きよた健活チャレンジ」の様子 清田区区役所ホームページより



広報さっぽろ清田区版より